

平成28年度 学校関係者評価報告書

学校法人水野学園
専門学校 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ「学校関係者評価委員会」は、平成28年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 開催日 平成29年8月28日(月)

2. 学校関係者評価委員

・ 関連業界等関係者	西田 良洋 様 松本 薫 様 飯嶋 薫 様 大川 知子 様 服部 栄一 様 横山 裕 様 堀田 峰明 様 林 繁 様 大澤 重仁 様 野村 俊一 様	一般社団法人 日本ジュエリー協会 一般社団法人 日本時計輸入協会 一般財団法人 ファッション産業人材育成機構 実践女子大学 生活科学部 生活環境学科 東日本ハンドバッグ工業組合 株式会社 桑山 株式会社 ホッタ ㈱ブライトリング・ジャパン ㈱シャミオール ㈹野村製作所	理事 専務理事 理事 准教授 理事長 デザイナー 取締役社長 技術トレーナー 代表取締役社長 代表取締役
------------	---	---	---

3. 水野学園からの参加者

水野 倫理 酒匂 博 渡辺 勝 松山 英一	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 学校長 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 教育部長 学校法人水野学園 教務部長 学校法人水野学園 総務部長
--------------------------------	---

4. 評価方法および評価点について

- ・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。
- ・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。
★評価点基準・・・ 4=適切 3=ほぼ適切 2=やや不適切 1=不適切

5. 評価項目ごとの学校関係者評価

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		評価点平均	3.78
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	1966年創立時に定められてた理念は再度推敲され、2015年より多校化に合わせたものとなった。これらを学生ハンドブックに掲載することで、学生全体への周知が進められている。	
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	教育理念の学生への浸透は順調に進められているが、具体的な育成人材像を周知させられていない。 また、文部科学省が各大学に求める3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を設定すべく、具体的な検討を行っていききたい。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。 大学では3つのポリシーの設定が進んでいるが、専門学校ではまだ少ないと聞く。具体的にぜひ進めて行っていただきたい。			

項目 2	学校運営		評価点平均	4.00
【現状】	3	経営方針に沿った事業計画は策定されているか	前年度末に翌年の運営方針、事業計画、運営予算を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて執行している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた事業計画、運営予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて業務を執行している。	
	4	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年4回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、毎年しっかりと実行されている。</p> <p>2016年度は、教員管理職・職員管理職による「教職員管理職会議」の運営が軌道に乗り、教育内容のみならず教職員の勤務時間の適正化や業務量の見直し等にまで検討が及んだ。</p> <p>2017年度に向けて、教職員の勤務満足度も向上させたいと考えている。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、適切と思われる。</p> <p>引き続き、教職員の満足度向上に尽力してもらいたい。</p>			

項目 3	教育活動		評価点平均	3.78
【現状】	5	各コースのカリキュラムは体系的に編成されているか	各学年での目標レベルに到達するために、各コースとも体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、毎年見直され、学年を超えて多角的に検討されている。	
	6	授業評価の実施・評価体制はあるか	授業そのもの(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行っている。また学生による教員評価アンケートを9月に実施し、学生評価も教員にフィードバックしている。	
	7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。	
	8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、筆記試験・実習課題成績により判定されている。	
	9	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 育成目標においては、ビジネスコンサルタントのLIFO診断(行動特性診断)のノウハウを在校生に取り入れ、学生の行動特性を早期に把握し、学生の資質に合致した指導方法を検討した。(2017年度新入生全員に実施) 前回ご指摘いただいた部署を超えた授業評価のあり方については「教育白書」の会を年末に設け、各教員から成績評価、問題解決案について様々な意見が出され討議された。 2016年度卒業制作は、東京サイクルデザイン専門学校と合同開催とし、本校の教育コンセプトに基づいた体系的なカリキュラムの展示を実現した。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後は専門学校の使命である職業人を育成するため、ビジネス関係の講師の登壇、またコミュニケーション能力向上の為のプログラムを強化する必要があると考えている。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、概ね適切と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会での委員の提言に対し、迅速かつ誠実に対応している。委員としてこの委員会参加の意義とやりがいを感じている。 ・職業人育成のためにも、在学中から社会の厳しさを体感できるものを検討・実施してほしい。 ・大学と競合できるだけの教育は十分に行われている。専門学校ならではの職業力の発信にも取り組めると良い。 			

項目 4	学修成果		評価点平均	3.67
【現状】	10	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2017年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は99.2%と、昨年を上回る結果となった。特に留学生求職者就職率については昨年に引き続き本年も100%を達成し、就職を希望する留学生は全員企業内定させることができた。	
	11	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリー学科において、例年指導している時計修理技能検定については、2級合格率68%、3級合格率72%と、昨年並みの結果となったが、貴金属装身具製作技能検定の受験結果は2級合格率22.2%、3級合格率57.7%と前年を下回った。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2015年度に初めて企画・実施した「学生作品展示会に企業を招待し、学生と企業の出会いの場を設定する行事」について、2016年度は「HELLO」と命名し、7月・8月に外部会場も併用して実施した。その結果、多くの企業および卒業生が訪問し、結果としてこのイベントから8名の企業内定が誕生した。 今回のイベントが卒業生の追跡調査に有効であることから、2017年度はその点も考慮した企画をしていきたい。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。 <ul style="list-style-type: none"> ・貴金属装身具製作技能検定の合格率低下は課題にすべき。技術力の低下を若干感じる時がある。 ・コミュニケーション能力が向上するのであれば、多少の技術力低下は大目に見ても良いと思う。 ・職人不足の業界には、日本文化を良く理解した外国人採用も多いに可能性がある。日本人同様、外国人の教育にも引き続き注力して欲しい。 			

項目 5	学生支援		評価点平均	3.89
【現状】	12	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催のキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導している。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人の公開を行っている。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応している。2016年度は就職専用WEBサイトの全面改訂を行い、スマートフォン対応が可能になるなど、学生の利便性の向上に努めた。	
	13	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、年間2回にわたる学生アンケートの実施や、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。2016年度は前年の学校関係者評価委員会の意見を受けて、教職員を対象に(社)家族支援メンタルサポート協会理事長 森薫氏によるセミナーを実施し、心に問題を抱えている学生の見極め方や対処方法等の知見を広めた。	
	14	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて経理課にて個人相談を行っている。	
	15	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、毎年5月に学内において全学生の健康診断を実施している。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。教職員にも不定期ながら日本赤十字社の救急救命士講習を学内で実施し、学生の健康・安全管理に努めている。	
	16	保護者と適切に連携しているか	毎年2回、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付している。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「水野学園通信」という小冊子を作成・同封している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は改善しつつあり、学科によってはその成果が学生の離脱率の減少、進級率の向上等に反映されつつある。			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、適切と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分の学生支援をしている様子がうかがえる。 ・離脱低下は運営の安定につながるので、引き続き、各種取り組みを行っていただきたい。 			

項目 6	教育環境	評価点平均	3.89
【現状】	17	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。 各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。 教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。
	18	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、施設・設備等の教育環境や防災体制は整備されていると評価している。		
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。		

項目 7	学生の受入れ募集		評価点平均	4.00
【現状】	19	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。	
	20	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>適正に実施されている。</p> <p>18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。主には中国、韓国、台湾から留学生を受け入れている。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			

項目 8	財務	評価点平均	3.78
【現状】	21	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	22	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。毎年度(5月)、監事2名による会計監査を行っている。
	23	財務情報公開の体制整備はできているか	関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。		

項目 9	法令の順守		評価点平均	3.89
【現状】	24	法令(個人情報保護含む)、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	「個人情報規定」など様々な規定に則り、法令順守についての総合的な管理にあっている。様々な規定集は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。	
	25	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。自己点検・自己評価の結果については、ホームページを通して公開することとしている。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 10	国際交流		評価点平均	4.00
【現状】	26	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	教務部内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。2016年度はその役割を強化し、学生のビザ更新の際の書類作成指導や、必要な推薦状の準備等、留学生が円滑に在留資格を取得更新できるよう種々の工夫がなされた。また、卒業後の帰国確認も強化され、卒業後不法滞在者ゼロの徹底を図った。	
	27	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	毎年恒例となっている海外大学の交換留学について、春期(4月～7月)に3名、秋期(9月～11月)に1名の計年間4名を交換留学生を受け入れた。本学からは秋期にオランダ・イタリアに各1名を交換留学生として送り出した。また、本年はエストニア芸術大学より教員交換研修の提案を受け、本校より1名、先方より2名の教員が双方の大学で特別講義を実施した。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	毎年実施している海外研修旅行について、社会情勢不安等により、一部実施を見送った。2017度は滞在先の選定および日程等について、より安全性を重視した企画をたてて、再開したいと考えている。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修旅行は、情勢を見極めて実施して欲しい。 ・当校の国際交流は、良い取り組みが多く、高く評価している。引き続き、学生がわくわくするような取り組みをお願いしたい。 			